

第211話

あなたの研究は教育工学と言えるものですか？

-JSET30周年記念全国大会で思ったこと-



- 30周年のJSETにSIGが誕生：[報道される](#) 斜字は外部リンクです
 - 10年後の未来を占うTED風トーク：[学会Web公開](#) (予定) 乞うご期待！
 - これに刺激されて[IDマガジン連載50回](#)に暴言を吐いた
- 「あなたの研究は教育工学と言えるものですか？」
 - [そう言いにくい研究発表](#)が多い：基礎研究？ 第三者的？
 - [修了生へのアドバイス](#)：来年の発表に期待します！
- 温故知新：これが教育工学だ（その1）！
 - 教師が適切な教育行為を選択することを支援：[東洋の定義](#)
 - アーティファクトの開発とその利用技術の開発：[佐伯胖の定義](#)
- 不易と流行：これが教育工学だ（その2）！
 - 教育工学の[7つの特性](#)：赤堀侃司：JSET第5代会長
- 参考：[10分野](#)（事典）、[二つの主義](#)（鈴木）、[偏り](#)（鈴木）

6つの研究グループ(SIG)設立を発表



SIG委員会を代表し、
SIGへの期待と10年
後の未来を予測を語
るヒゲ講師

1. 高等教育・FD
2. 教師教育・実践研究
3. 教育・学習支援システム開発
4. 教育の情報化
5. ゲーム学習・オープンエデュケーション
6. 協調学習・学習科学



とある修了生が行った発表へのアドバイス @JSET2014in岐阜

- 「あなたの来年の発表を楽しみにしています。ここで終わったら教育工学じゃないから、今回発見した相関関係を実践の場でどう活かすかを考えて、どんな人がドロップアウト率が高いかを報告するだけではなく、できるだけドロップアウトを減らす工夫を試みて、その成果をぜひ来年持ってきてください。」
- あのコメントにめげずに、来年もチャンと発表してね、修了生殿

教育工学について先達たちが残した言葉1

教育工学とは、教育者がより適切な教育行為
を選ぶことができるようにする工学である。

東洋(あずまひろし):JSET初代会長

『日本教育工学雑誌』創刊号, 1976

- 評価は白黒をはっきりさせるために行うものではない。黒(あぶない状態)を白(なんとかできた状態)に変えるために行うもの
- サイエンスと工学の違い(結論指向vs決定指向)を意識して研究。実践に役立つ報告を!
- 実践報告→改善・次の一手に言及→デザイン原則案の提起

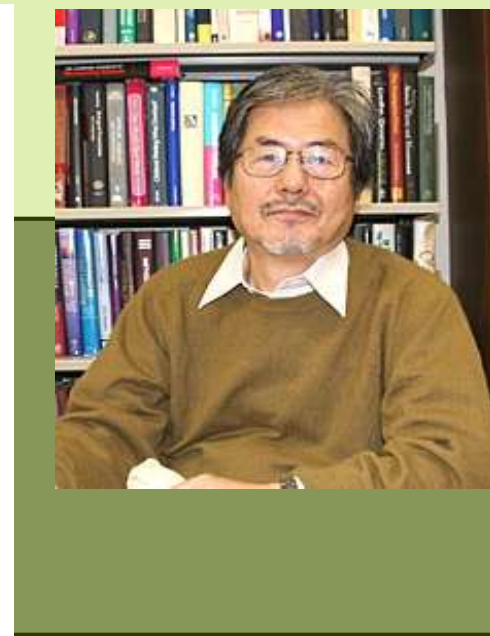


教育工学について先達たちが残した言葉2

教育工学とは、学習を支援する道具 (Artifacts) の開発と、その道具の使用技術の開発をする学問である。 佐伯 胖 (さえき ゆたか): JSET 名誉会員

JSET シンポジウム, 1990

- 何か新しい教育のやり方やしくみを創造し、それをどう使えばよいかの提案をまとめること
- 現状分析は大切だが、そこに留まっていたはいけない
- 現状を少しでも良くするための「何か新しいもの」を工夫すること、そしてその工夫が万人に使えるように技術化すること



教育工学 7つの特性

1. 時代と共に、テーマが移っていく
2. 教育政策と連動して、移っている
3. 研究方法も、時代と共に移っていく
4. 授業に関わるテーマを追求する
5. 教育実践を、重視する
6. 道具を、持ち込む
7. 教育に、役立つ



赤堀侃司(あかほり かんじ):

JSET第5代会長

教育工学研究の特性と
今後の展開について, 2007

教育工学は時代とともに移り変わるし、定義も周期的に見直されている。上3つが流行で下4つが不易かな？

©2014 鈴木克明



あなたの研究は 教育工学と言えるものなのでしょうか？

- 「基礎研究」という言い訳の陰に隠れて、あるいは心理学を代表とする結論指向のサイエンスの流儀が抜けきれず、「それで教師はどうすればいいのでしょうか？」という問いに答えるための研究であるということもまるで眼中にない、と思われるものが多い
- 「このグループの学習者の傾向は7つに分類することができそうです」という第三者的・傍観的研究
- 「こうやったらこうなった」という発表は、まだ実践を工夫した報告だという点では工学的

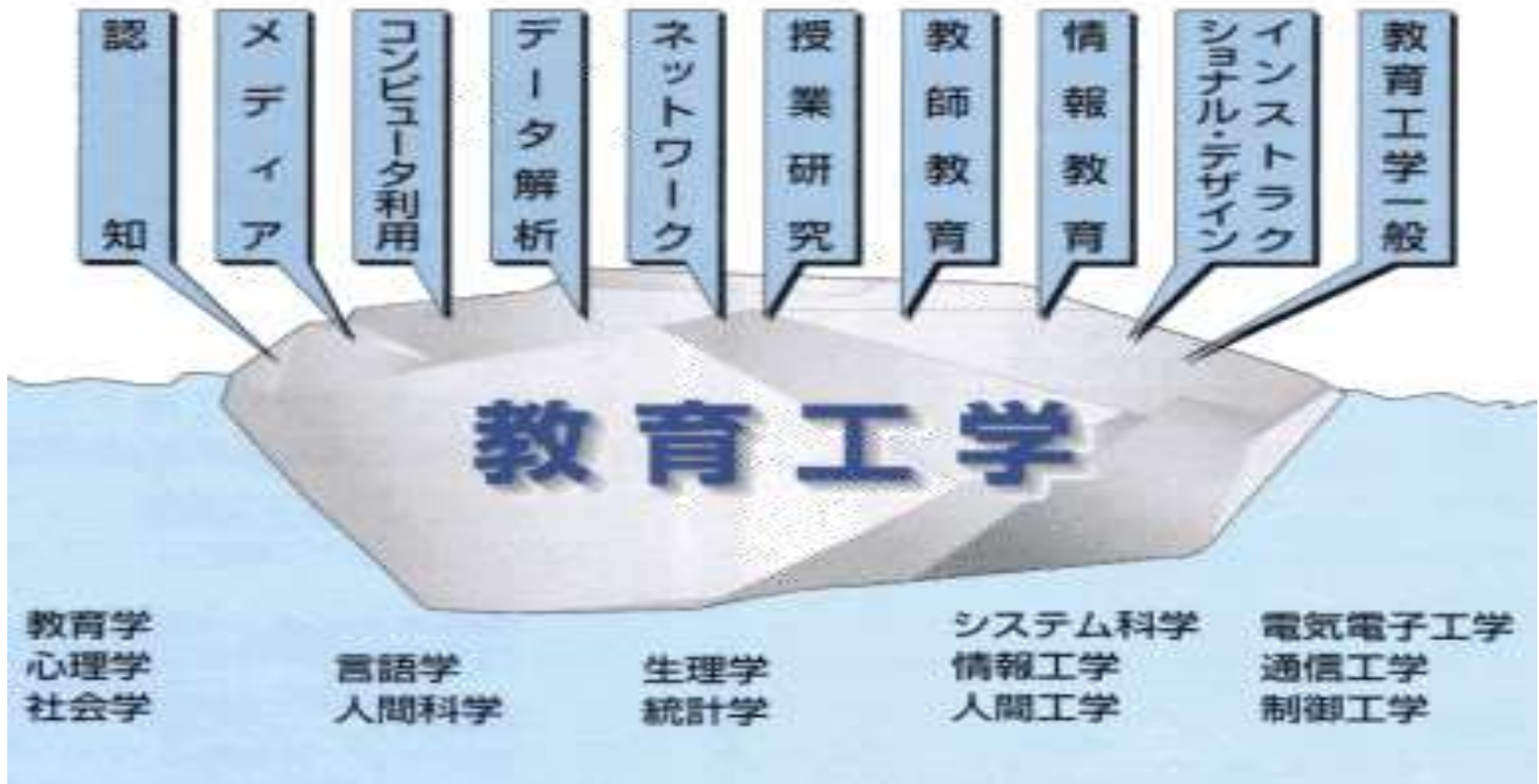
人文社会系と理工系、並びに人間に関する
学問分野を融合した学際的な学問

教育工学の10分野

JSET 創立15周年記念出版 (教育工学事典 2000)

教育という領域の
工学という方法

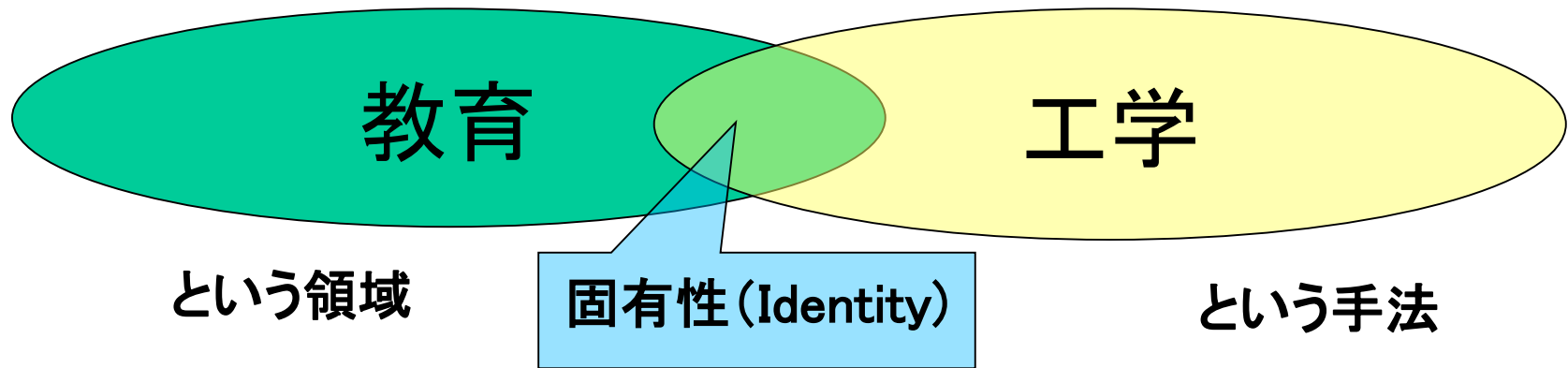
日本の教育工学
の関心の偏り





日本の教育工学
の関心の偏り

教育工学＝楽観主義＋折衷主義！ (鈴木 1995)



楽観主義：人を育てるためには必須の
研究態度＝決して諦めない
折衷主義：何でも使って問題を解決する
のが工学＝えり好みしない

我が国におけるこれまでの 教育工学の研究対象：関心の偏り

K-12 ICT

生涯学習

eラーニング

高等教育

企業内教育

モバイル/ユビキタス

インストラクショナルデザイン

これをやろう！